視覚文化の講座・来月スタート

平安女学院大／初回は藤野可織さんが対談

美術や広告など目に見えるあらゆるものについて考える連続講座「視覚の文化地図」（主催・きょうと視覚文化振興財団、京都新聞）が9月から来年4月まで平安女学院大（京都市上京区）で開かれる。第1回は9月19日午後2時、芥川賞作家藤野可織さん＝**写真**＝と恩師の岸文和同志社大名誉教授が本作りをテーマに対談する。

視覚文化とはカレンダーや本の背表紙、テレビCM、新聞の見出しなど生活の中で目に訴えてくるもの全てが対象だ。何を狙い、どんな工夫で作られたかを連続講座で考え、その魅力をより楽しんでもらう。

藤野さんと岸さんの対談は「本を造る―帯と装画と文学世界」がテーマ。表紙デザイン、活字の種類、帯の推薦文の言葉など本を手に取ってもらうため、さまざまな視覚効果が使われるが、著者、デザイナー、編集者ら関わる人々の間に微妙な感覚のずれが生じることもあるという。「藤野さんに自分の本作りを率直に語ってもらう。普段聞けない裏話がいっぱいだと思う。ぜひ楽しんでほしい」と岸さんは話す。

講座は、毎月第3土曜（来年3月のみ第4日曜）の午後2時～3時半に計8回開催。2回目以降の講師はJR東海のイメージアップ戦略を手がけた同社相談役の須田寛さん、漫画「仮面ライダー」の作者で京都精華大教授のすがやみつるさんら。8回で8千円。定員40人。同財団ホームページから用紙をダウンロードし、必要事項を書いてファクスで事務局0774（45）5511（問い合わせ電話兼用）へ送る。

（林屋祐子）

2020年8月22日付　京都新聞朝刊掲載　京都新聞社提供

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.
© 京都新聞社　無断複製・転載を禁じます